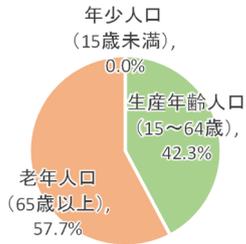


前 (まえ)

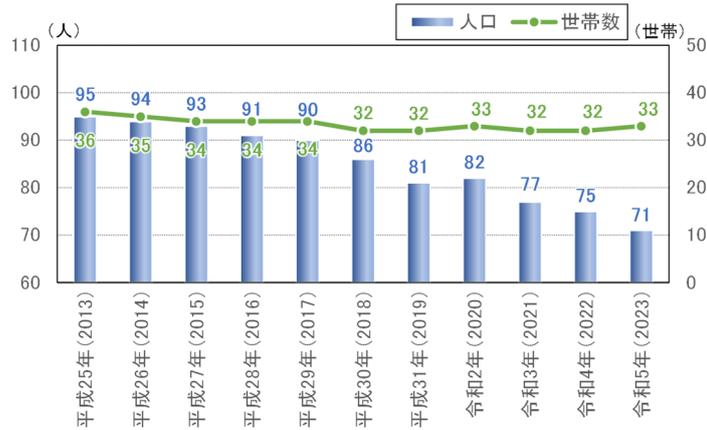
人口・世帯数等 (令和5年4月)

人口	71人
世帯数	33世帯
高齢化率	57.7%

年齢別人口割合



人口・世帯数の推移 (過去10年間)



区域の概要

立地 集落の東側を岸田川が北西に流れ、川に並走する県道岸田諸寄線を挟んで家屋が散在する。東西に山が迫る標高220mに位置するが、集落の周囲には広がりのある田畑が開ける。

地名由来 昔、「家永千軒」という大きな村があり（現在は棚田になっている）、この村が岸田川の対岸の土地に次第に移り住み、この分村を旧村の前の村といったのが由来の一つとされる。また、鎌倉時代末頃、但馬有数の大寺院であった勝楽寺（正楽寺）の門前村として形成されたことから起源とする説もある。（「たじま地名考」日本海新聞）

歴史等 近世の前村は、天正11年（1853）因幡国鳥取城主宮部氏領、慶長6年（1601）同国若桜藩領、元和3年（1617）幕府領、寛永4年（1627）旗本宮城氏知行、寛永20年（1643）幕府領、寛文8年（1668）豊岡藩領、享保11年（1726）からは幕府領となった。天保5年（1834）の『但馬国郷帳』（天保郷帳）の村高は144石余。天保9年（1838）の差上帳では、家数50・人数234。特産物は但馬牛。

明治22年（1889）八田村の大字となり、昭和29年（1954）からは温泉町の大字となる。明治24年（1891）の戸数66、人口は男156・女143。

これまで把握している文化財

文化財の件数 21件 (うち指定等文化財 2件)

大分類	中分類	小分類	把握件数	指定等				
有形文化財	建造物	建築物	0	5	0			
		石造物	2		0			
		工作物・その他の構造物	3		0			
	美術工芸品	彫刻	7	9	0			
		絵画	0		0			
		工芸品	1		1			
		書跡・典籍	1		1			
		古文書・歴史資料・考古資料	0		0			
		音楽	0		0			
		演劇	0		0			
無形文化財		工芸技術	0	0				
		その他の無形文化財	0	0				
		信仰の場	4	4	0			
		祭具	0		0			
		民具	0		0			
		民俗文化財	有形の民俗文化財	その他の有形の民俗文化財	0	7	0	
				年中行事・民俗芸能	1		0	
				民俗技術	0		0	
			無形の民俗文化財	食文化	0		3	0
				民間説話・俗信	2			0
その他の無形の民俗文化財	0			0				
散布地・集落跡・生産遺跡	0			0				
記念物	遺跡	古墳・その他の墓	0	0	0			
		城館跡・寺社跡	0		0			
		街道・古道等	0		0			
		戦争遺跡	0		0			
		その他の遺跡	0		0			
	名勝地	山岳・高原・丘陵	0	0	0			
		海岸・海浜・島嶼	0		0			
		河川・滝・渓谷・湖沼	0		0			
		公園・庭園	0		0			
		その他の名勝地	0		0			
動物・植物・地質鉱物		動物	0	0	0			
		植物	0		0			
		地質鉱物	0		0			
文化的景観		生活・生業・風土により形成された景観地	0	0				
伝統的建造物群		宿場町・城下町・農漁村等	0	0				



前若一神社



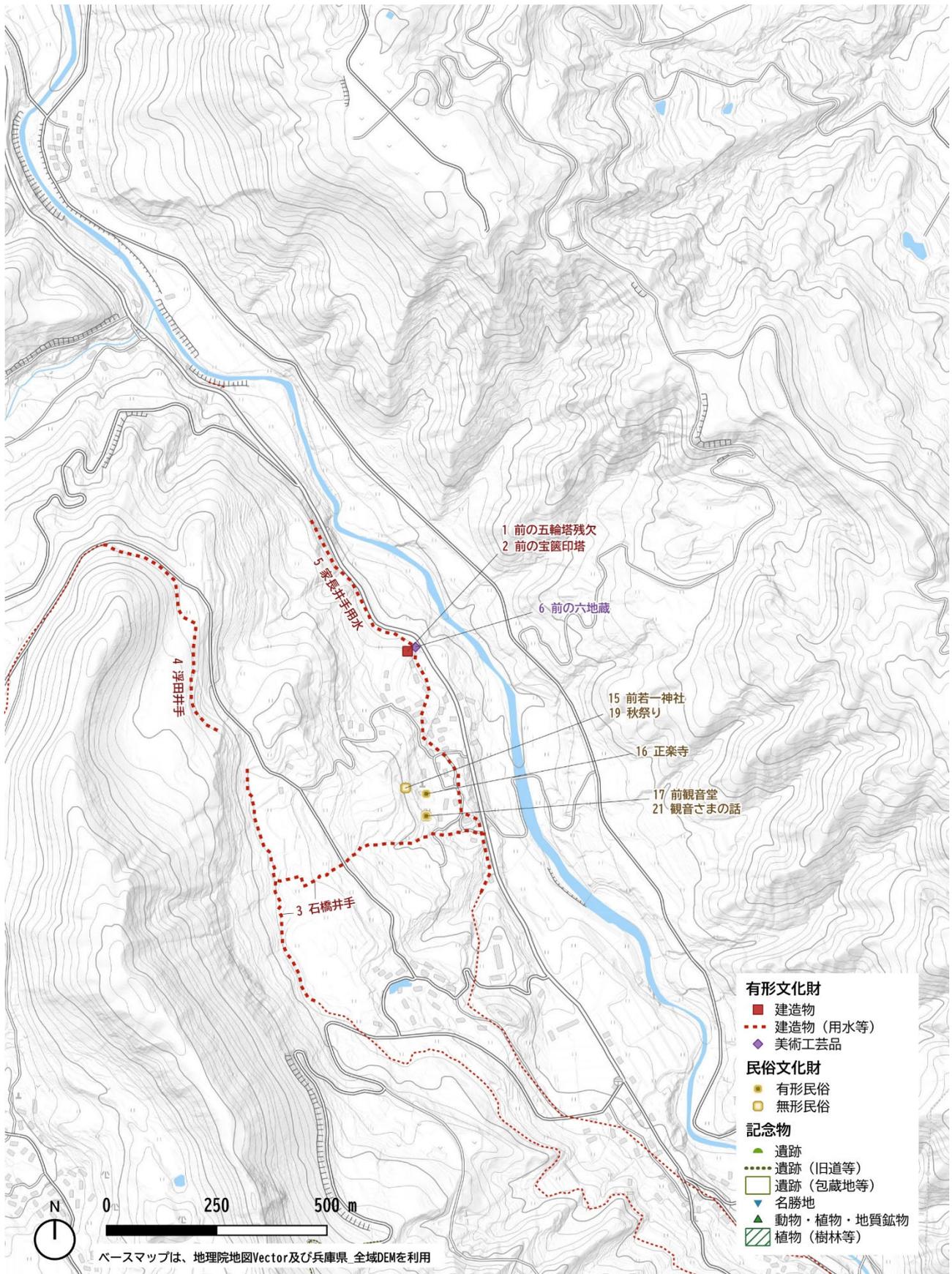
前若一神社本殿



正楽寺

※人口・世帯数は住民基本台帳（令和5年4月現在）による。

文化財の分布



※所在地の掲載可能なものに限る

文化財の一覧

■ 有形文化財／建造物

分類	番号	名称	概要
石造物	1	前の五輪塔残欠	村の入口（下）の県道うえの墓地内にある。宝篋印塔の周囲に林立する五輪塔の残欠群。
	2	前の宝篋印塔	130×45cmの石塔。村の入口（下）の県道うえの墓地内に立つ。周囲には五輪塔の残欠が林立している。
工作物・ その他の 構造物	3	石橋井手	海拔270mの中腹段丘にある石橋の水田を灌漑するための岸田川本流からの井手。山ひだに従って屈折しながら伸びる。水路延長は3.9km。室町時代に八田谷の第一の名主馬場氏の関連が想定されている。
	4	浮田井手	海拔270mの中腹段丘にある石橋の水田を灌漑するための岸田川支流小又川からの井手。山ひだに従って屈折しながら伸びる。水路延長は3.6km。浮田井手がかりの園田・杉山の田んぼの開発は、古文書により、1700年代の元禄年間であったことが知られている。
	5	家長井手用水	近世中期に築造された水路。水路延長6,000m、灌漑面積14,000ha。取入口は岸田砂田、排水口は岸田川。

■ 有形文化財／美術工芸品

分類	番号	名称	概要
彫刻	6	前の六地藏	53×31cmの石像6体。天保年間（1831～1845）のもの。石組の中に安置されている。
	7	前の薬師如来	68×39cmの木像（坐像）。公民館の中に厨子つきで祀られている。虫食いも多く見られ、塗りも薄くなっている。左手首が損傷している。近世初期の作。
	8	前観音堂の観世音菩薩	観音堂に祀られている。縁起によると仏頂山に祀られ、荒神山に移り、この地の杉の巨木の上に遷座していたと伝える聖観世音菩薩坐像。年代は不明。
	9	前観音堂の不動明王	120×45cmの木像。観音堂に祀られている。火災、光背、台座の傷みがひどく、塗りもかなり落ちている。年代は不明。
	10	前観音堂の毘沙門天	105×45cmの木像。観音堂に祀られている。全体的に塗りも落ち、特に台座の損傷が著しい。持物が紛失している。年代は不明。
	11	前観音堂の弘法大師	80×68cmの木像。観音堂に祀られている。外形に損傷はみられないが、塗りがやや薄くなっている。
	12	正楽寺の阿弥陀如来像	正楽寺の本尊。阿弥陀如来の仏像。
工芸品	13	鰐口	径41cm×厚さ（中央）12cm、円周部7cm。撞座は美しい蓮華を浮き出させ、各区を分ける線条も細く、全体に繊細な趣を有する作である。銘文は銘帯の左右に荒く刻まれているため難読であるが、判読部分は次の通りである。 （右）「我此名経〇〇 但馬国二方郡八太庄前村 薬師堂勝楽寺鐘」（左） 「衆〇〇〇信心〇〇 応永三十五年戊申三月八日 合力壇那大願八勝部講中」※「願八勝部講中」は推定 県指定重要有形文化財
書跡・典籍	14	二方郡内前村田畑地詰帳	但馬国では、中国征伐後、領主になった宮部善祥房が文禄3年（1594）に田畑・屋敷の調査を行い（太閤検地）、村高を決め、これを基本にして年貢を納めるようになった。二方郡では正保元年（1644）以降は太閤検地の村高を受け継いでいる。しかし、前村では元禄9年（1696）に受けており、元禄15年（1702）に、豊岡領内では前村だけが調査を受け、約47石の減額を認められている。このような例は豊岡領内でこの一村だけのようで、豊岡藩郡奉行、太田仁兵衛以下4名の花押（かきはん）捺印があり、正本並みの資料で、極めて史料価値の高いものである。 町指定文化財

■ 民俗文化財／有形の民俗文化財

分類	番号	名称	概要
信仰の場	15	前若一神社	祭神は伊弉諾命、伊弉冉命。応永（1394）以前に、出雲国足日山より分霊を勧請し、村内字仏の尾に奉斎した。その後、現在地に移転遷座したと伝えられる。社名は古くより若一王子といい、明治初年（1868）に若一神社と改めた。近代社格は村社。境内には熊野神社（祭神不詳）、須賀神社（素戔鳴命）、稻荷神社（保食命）がある。
	16	正楽寺	過去帳によると慶長元丙申年（1596）より明治4年（1871）末までのおよそ267年とある。また『二方考』によると、当山の開山は快酒法印であり、湯八幡神社は当山の別宮であったとされている。しかし、『但馬考』によると正楽寺に伝わる鰐口に応永年中（1394～1427）の書で、二方郡八太の庄、勝楽寺云々とあり、快酒法印は開祖ではなく中興とも考えられる。
	17	前観音堂	観世音菩薩、不動明王、毘沙門天、弘法大師の像が祀られている堂。明治6年（1873）11月頃から明治8年（1875）8月頃まで、旧温泉町域での最初の小学校である杉山学校として利用された。教員には正楽寺住職が雇い入れられ、生徒数はおよそ30名余りであったとされる。
	18	前薬師堂	概要不明

■ 民俗文化財／無形の民俗文化財

分類	番号	名称	概要
年中行事・民俗芸能	19	前若一神社秋祭り	9月19日に行われる。
民間説話・俗信	20	おおどしの火	※『但馬・温泉町の民話と伝説』（昭和59年、喜尚晃子編纂、手鞠文庫発行）p124参照
	21	観音さまの話	※『温泉町郷土読本』（昭和42年、温泉町教育研修所調査部編集）p246参照 ※『但馬・温泉町の民話と伝説』（昭和59年、喜尚晃子編纂、手鞠文庫発行）p64参照